第１学年　道徳科　学習指導細案

１　主題名　　「異文化の人々と共に生きる」C―（２３）国際理解・国際貢献

２　本時のねらい　　日本人と外国の人との間に生じたギャップを巡る事例を通して、異なる文化を持つ人どうしが共生していくために大切なことについて考えさせ、異文化を尊重し、理解し合おうとするための判断力を育てる。

３　主題設定の理由

（１）　主題と生徒観

本主題では日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って世界の平和について考えさせる内容項目である。異文化を理解しつつ、互いに気持ちよく共存するためにどんな心が必要かを考える。現在、在日外国人や外国人観光客の増加で実際に外国人と接する機会も珍しくない。現在の中学生にとって海外の情報が入手しやすく、外国や外国人は身近な存在になりつつあるが、異文化理解や自国文化への理解は進んでいるといえるのであろうか。グローバル化が進展する現在、どの国の人々も同じ人間として尊重し、差別や偏見をもたずに公正・公平に接することが大切であり、共生していくためにはどのような心が必要かを考えさせたい。

（２）　主題と教材観について

日本の文化を背景にもつ人と他国の文化を背景にもつ人との間に生じたギャップについて紹介している事例を基に、異なる文化や価値観をもつ人々が共生することについて考えさせる教材である。異なる伝統や文化、生活習慣をもつ人々と共に生きていくためには多面的・多角的な物の見方をもつことが重要になる。

４　本時の学習課題

異なる文化をもつ人々とともに生きていくために大切なことは何だろう。

５　本時の展開

学習活動	教師の働きかけ（T）と予想される生徒の反応（S）	■評価 ○留意点 ◇ICT
導入 １異なる文化をもつ人々とともに生きる時代がすぐそこまで来ていることを身近な例を示しながら実感させ、学習課題へとつなげる。	T：外国から日本に来て、日本人と同様の学習をしている様子を見せる。 T：外国から転校して来て、彼らが困りそうなことは何でしょうか。 S：言葉（言語）が違うから外国の人とコミュニケーションが上手に取れない。 S：生活の違い。（衣食住）。 T：「言葉（言語）」や「食」の違いというのは，ひとくくりにすると何の違いですか。 S：文化の違い？ T：その通りです。では、先ほど挙がった「食」や「言語」以外に、他にどのような文化的な違いがあるか、見てみましょう。→教科書 p117 を開かせる。 事例①より T：この場面を読んで、どう思いましたか。 S：フランス人ははっきり言いすぎ。 雅史は本当にそう思ったんじゃないかな。 雅史も言いたいことは言わないとダメ。 日本は対立を避ける。 T：では，彼らのように異なる文化をもつ人々とともに生きていくために大切なことを今日は見つけていきましょう。	◇写真をモニターに写す。 ◇ロイロノートに個人で考える。

	〈学習課題〉 異なる文化をもつ人々とともに生きていくために大切なことは何だろう。	
展開 ２教科書にある具体例を示しながら、まとめ（最適解）へとつなげる。	T：では教科書 p119 を開き、次の事例を考えてみましょう。 事例②より T：この事例に見られる、文化的な違いは何ですか。 S：・日本は集団の和を考えて行動する。 ・他人の迷惑になることはしない。 ・外国は仲間で楽しむことを優先しているという違いがある。 T：その通りです。では、ここまで見てきた事例①や②のような場面で、それぞれの当事者たちがお互いに気をつけなければいけないポイントは何かを考えたうえで、最終的に、異なる文化をもつ者同士がともに生きていくために大切なものは何なのかを明らかにしましょう。 まず班になり、話し合いをして下さい。その後、共有ノートに自分の意見をたくさん出せるだけ出していきます。友達の意見を見た上で、自分がなるほどなと思ったものがあったら、その意見と自分の意見とを合わせて、より良いものに発展させ、ホワイトボードにまとめましょう。 T：中心発問　「事例①、②において、当事者同士がお互いに気をつけるべきポイントは何か。」 〈まとめ〉 「傾聴、理解、受容、公平・公正、協調」に基づく考え方を生徒の言葉から導き出し、〈まとめ〉にする。 ※できる限り、「傾聴」・「理解」・「受容」の３つからまとめていく。	◇ロイロノート（共有ノート） 「日本」と「外国」の２つのパターンで挙げていく。 ○話し合いの様子を観察する。 ◇ロイロノート（共有ノート）を使い、（Y チャートシート）自ら出した考えを入れる。（似ている意見などグループ分け）。 ○ホワイトボードに班でまとまった考えを記入し、黒板に貼り付ける。
終末 ・具体的な場面を想定しながら、納得解へとつなげる。	T：最後に、異なる文化をもつ者同士がともに生きていくためには、お互いの文化を理解したり、尊重したりすることが大切だということを確認しました。では今後、自分とは異なる文化の人々とかかわるときに、「私だったら、どのような場面で、どのようにかかわりたい」と思いますか。次に示す文章のテンプレートに合わせて、振り返りを書きましょう。 〈振り返り〉 私は、○○な場面に遭遇した時には（○○することになったら）、○○したい。 【場面は生徒自身が設定し、どのように行動するかを考える。】 例１）私は、異なる文化の人と一緒に生活することになったら、お互いに文化を理解して、気持ちよく生活するよう心がけたい。 例２）私は、外国の方が日本の文化のことで何か困っていそうだったら、相手の文化をきちんと理解したうえで、こちらの文化について丁寧に教えてあげたい。	■自分の考えや変容を今後の行動につなげられるように理由とともにワークシートの記述。 ○振り返り 場面設定に使える言葉を補助的に入れる。

評価の観点
○「私だったらどのような場面で、どのように人と関わっていきたい。」と自分の考えをもつことができる。

評価方法
○話し合いの様子やワークシート、ロイロノートへの記述を基に評価する。

目指す生徒の深い学びの姿

最適解	納得解（例）
どんな考え方をすれば、異なる文化をもつ人同士が理解しあえるのか。それは、文化的価値の違いや、生きてきた生活のズレが生じているため、互いに違いを認めること、違いを尊重すること、違いはあっても同じ人間として違いを受け止めるなど、相互理解、寛容な態度をもつことが大切である。	例１）私は、異なる意見の人と一緒に活動することになったら、お互いの立場を理解して、でも遠慮せずに力を出せるように心がけたい。 例２）私は、今まで、「言わない方が悪いんだ」と思っていたが、伝えられないからこそ困っているんだという考え方もできるか、自分チャレンジしようと思う。